

編集後記

第六号の発行が遅れましたことを、まず、お詫び申し上げます。今号は一〇月中に発行する予定で原稿を募集しましたが、結果としては約二ヶ月遅くなつてしまいました。原因は、やはり原稿が出そろわず、編集期間が長引いてしまったことにあります。最初に定めました締め切りまでに原稿をお寄せ下さった投稿者の皆様には、特にお詫び申し上げます。また、入稿を待っていた皆さまは花書院の皆様にも大変ご迷惑をおかけしました。

原爆文学研究会の会員は、現時点で四三三名いらっしゃいます。研究会では、年に四回×二名の発表が行われますので、毎年八名分の発表の枠があることとなります。したがって、全員発表すると一巡するのにだいたい六年間かかることとなります。もちろん全員が発表をするという想定は現実なものではありませんし、そうなれば順番がなかなか回つて来なくなりしますので、それはそれで大変です。しかし二〇一三年に一度は発表するぞ! という心持ちで参加していただける方が増えれば、研究会にも活気が満ち、機関誌もさらに充実したものになつていくと思います。まだ発表をなさっていない方、ここ数年発表をなさっていない方、ご連絡をお待ちしております。

ところで、この機関誌の裏表紙には、毎号、被爆くすの木二世の写真が掲載しております。折り返し部分にもありますとおり、本研究会の発足時に譲っていただいたものです。初めは本当に手の

ひらくらいの大きさしかなく、紙袋に入れて高速バスで運んだものでしたが、今や人の背丈を超えるほど立派に育っているそうです。前号までは木の部分だけをトリミングしていたいておりましたが、背景にスクリーンを配しての撮影が困難になったため、今回から画像処理の仕方を変えていただいているとの連絡を花書院よりいただいておられます。木は本会の呼びかけ人である故・花田俊典氏のご自宅に植えていただきましたが、まったくすいぶん大きく育てていただいたものです。日頃より木のお世話をしていたいただいている花田家の皆様と雑誌発行の度に写真を撮影して下さっている花書院の仲西桂文氏に心より御礼申し上げます。「原爆文学研究」を全号お持ちの方は、ぜひ裏表紙を上にして六号までを並べてご覧下さい。着実に成長しつつあるくすの木の姿に、励まされることと思います。そして、ひとつ発表してみるか、という気になつていただけるはずですよ。

この号には七本の批評を掲載しております。それぞれ真摯な問題と格闘した熱のある論ばかりであると思っております。ご意見、ご感想等お寄せいただければ幸いです。(N)

原爆文学研究 6

二〇〇七年二月一四日発行

編集 原爆文学研究会

八〇八六〇

福岡市中央区六本松四―二―一

九州大学大学院比較社会文化研究院

波瀾剛研究室気付

発行 (有)花書院

八〇〇〇三

福岡市中央区白金二―九―六

TEL 〇九二五六〇三六七

FAX 〇九二五四四四一一

定価 二二〇〇円本体 二一四三円)

◇書店にない場合は「地方小出版流通センター扱い」とご指定の上、書店にご注文下さい。

◇継続購読は、花書院「原爆文学研究係」にお申し込み下さい。送料は無料となります。